

健康・生活科学委員会 ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会

第26期第2回会議 議事録

日時：2024年4月29日(月)13時~15時

形式：オンライン会議

出席者：西村、森山、中村、熊谷、浅野、大久保（書記）、片田、亀井、神原、真田、田高、手島、仲上（書記）、三重野、山本、吉沢、綿貫

欠席者：井上、坂下、新福（育休中）、法橋、永井

（敬称略）

報告

1. 第191回総会内容について（資料 声明:日本学術会議の法人化に向けて に対する懸念について）

- ・ 総会では、法人化に向けて財政的支援の継続性、政府からの自立性・独立性の担保、過重でないガバナンス制度の維持、コ・オペレーション方式の重要性が確認され、今後、法人化のメリット・デメリットを鑑みながら継続検討するとの説明があった。
- ・ 外部評価有識者より、日本学術会議予算について不足は明らかで、2~3倍程度の予算確保が求められるとの発言が出されたとの紹介があった。

2. 第26期分科会の方針の決定：科学的助言について

- ・ 4月24日の健康・生活科学委員会にて、例年、分科会の提言表出の時期が期の終盤であることから、実行に移すことが困難であった旨の討議がなされた。26期末より、半年から1年前に提言発出を行い、その内容に基づく計画的なフォローアップ活動をしていく旨の報告がなされた。
- ・ 今期分科会予算は微増しているが、交通費予算に制限がありオンライン会議で交通費を削減する。シンポジウムの講師謝金も共同シンポジウム企画を検討しながら費用削減をする。

3. 第26期分科会の企画と役割分担について（資料統合版\_ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会②.pdf）

- ・ 第1回会議内容に基づき、今後の企画と役割分担に関するたたき台が提示された。
- ・ それを受け、第25期でも検討課題となったAIやロボット等の導入・活用、看護ロボットの開発研究、データヘルスに関する研究をもとに医療人材活用の最適化も今期活動に含める必要性や、「2040年は科学技術と人は共生する時代になる。そのために看護は何を準備すべきなのか」「あらゆる場所に看護を届ける科学技術が重要であり、それは改革のステージ、教育のステージ、実装のステージがある」との意見が出された。
- ・ 役割分担は、1) 市民等のステークホルダーに求められるヘルスケア人材、2) ヘルスケア人材の連携・共創の在り方、3) ヘルスケア人材共創のための教育と権裁量の3つが提示されたが、別々に、同時に作業できる内容であるのか、段階的な取り組みとなるのか等の検討がなされ、まずは1)を押さえることの必要性が述べられた。
- ・ ヘルスケア人材育成とはどのような人材を想定しているのかの質問が出された。これを受け、ヘルスケアとは何か、ケアサイエンス分科会でも「1億人総ケアラー」について議論されることから本分科会では有国家資格者に限定するのか、国民が求める健康を支援する人材で良いのか等の議論がなされ、役割分担の前にヘルスケア人材とは何を指すのかを継続審議することとなった。

4. 日本プライマリ・ケア連合学会国際シンポジウム（後援）と世界災害看護学会について

- ・ シンポジウム「Transforming Nursing NOW 変革するアジアの看護」の紹介がされ後援が承認された。また第8回世界災害看護学会の紹介がなされた。

以上